

## 平成29年度以降の障がい者スポーツの振興に関する取組について (当初予算事業以外)

平成29年3月23日

スポーツ課

本県の障がい者スポーツの一層の振興を目指し、今後以下の事業を予定しています。

### 1 日本財団と連携した障がい者スポーツ拠点整備

#### (1) 経過

- 鳥取県と日本財団は、地方創生のモデル的な地域づくりを実現するため、県内民間事業者を主な主体とする3分野9事業の共同プロジェクト事業を5年間かけて実施するとの協定を、平成27年11月18日に締結。
- 障がい者スポーツに関しては、県立布勢総合運動公園を障がい者スポーツの拠点とするための各種バリアフリー化、機能向上を行うこととしている。
- 現在、医療、体育スポーツ、研究者、選手、学校等の有識者からなる検討会(※)において、備えるべき機能、必要な整備について検討を行っているところ。着手できる内容(ハード、ソフト)について平成29年度から順次着手し、平成31年度の全面運用を目指している。

(※) 油野利博鳥取県体育協会会長、福留史朗鳥取県障がい者スポーツ協会会長、鱸俊朗尾崎病院院長、片桐浩史県立総合療育センターリハビリテーション部部長、澁谷茂樹笹川スポーツ団主任研究員、関耕二鳥取大学地域学部准教授、大森浩司大森トレーナーROOM代表、石丸知養和病院理学療法士、治郎丸有里スペシャルオリンピックス日本・鳥取、安田俊之県立鳥取盲学校寄宿舎指導員、森卓也車椅子陸上投てき選手、県(スポーツ課、緑豊かな自然課、とっとり元気戦略課)

#### (2) 検討中の主な機能、整備

- 障がい者スポーツのきっかけ作り、スポーツを続けることによるスポーツ人口の拡大
  - ・身体、知的、精神等の種別、軽重の程度に応じた設備、スポーツ用具、指導員体制の確保
- トップを目指すアスリート支援
  - ・障がい者アスリートに対するトレーニング指導、動作分析といった科学的な側面からのサポート体制の導入。(分析機器導入、医療機関との連携)
- 障がい者スポーツへの親しみ、あこがれの醸成
  - ・民間宿泊施設のバリアフリー化を行い、大会、合宿を誘致し障がい者スポーツが身近にある環境へ向けた整備。
- 中部・西部地区における整備、機能充実も併せて推進

### (3) 今後のスケジュール

- ・平成 28 年度 検討会の立ち上げ、必要機能等について議論  
(第 1 回 11 月 2 日、第 2 回 12 月 20 日。以降も継続。)
- ・平成 29 年度 基本計画策定・公表、可能な内容から随時事業着手
- ・平成 31 年度 全面運用

## 2 鳥取県障がい者スポーツ振興指針（仮称）の策定

平成 28 年 11 月議会における議論を受け、本県障がい者スポーツの振興指針を平成 29 年度に策定する予定。今後、障害者施策推進協議会、特別支援学校、当事者団体等の意見を踏まえつつ、鳥取県スポーツ審議会において議論を進めて行く予定。

○鳥取県障がい者スポーツ振興指針（仮称）に盛り込むことが考えられる主な項目

- ・障がい児者のスポーツ活動の推進
  - ・特別支援学校及び地域におけるスポーツ活動の推進
  - ・障がい者スポーツの指導者の確保
  - ・障がいの有無に関わらずともに行うスポーツ活動の推進（共生の推進）
  - ・障がい者スポーツに対する理解促進
  - ・障がい者スポーツの競技力向上
  - ・環境整備、医科学サポート
  - ・障がい者スポーツの推進体制の整備
  - ・団体間連携、育成の推進
- など

### 参考) 平成 28 年 12 月 2 日 11 月定例会

問：障がい者スポーツを今以上に振興するためにも、その指針として、障がい者スポーツに特化した中長期的な視点での体系的・継続的な振興計画を策定すべきと私は考えますけれども、この点についても知事の所見をお伺いいたします。

知事答弁：例えば新年度ですね、先ほど日本財団と協調して動き始める新しい拠点施設のいよいよ建設に入るということになってくるかと思えます。そのとき見えてくる一つの青写真も頭に入れながらですね、障がい者スポーツの振興計画を別途新たに作らせていただくことで、関係者の方も議論がしやすい、今後の P D C A サイクルを回しやすいというやり方もあると思えます。この辺関係者と今年度いっぱい話をさせていただきたいと思えます。

鳥取のコカ・コーラ陸上競技場

# 障害者スポーツ拠点に

## 19年度全面運用開始

県など整備へ

鳥取県などは、県内の障害者スポーツ拠点として鳥取市のコカ・コーラ陸上競技場の機能充実を図る。体育館やトレーニングルームのほか、医学的な分析機器を設け、2019年度に全面運用を開始する方針。運動の習慣化からトップ選手育成まで、障害者が気兼ねなくスポーツに打ち込める環境を整備する。各種スポーツ教室の

鳥取県などは、県内の障害者スポーツ拠点として鳥取市のコカ・コーラ陸上競技場の機能充実を図る。体育館やトレーニングルームのほか、医学的な分析機器を設け、2019年度に全面運用を開始する方針。運動の習慣化からトップ選手育成まで、障害者が気兼ねなくスポーツに打ち込める環境を整備する。各種スポーツ教室の

開催、専用機器を使ったトレーニング指導を通して障害者スポーツの裾野を拡大。個々の障害に応じて効率的に運動できる動作の分析に当たる。大学や医療機関とも連携し、運営には民間事業者の参入を促す。米子産業体育館と倉吉体育文化会館にサテライト機能を持たせる。

拠点化事業は、県と日本財団の共同プロジェクト

画を発表。一部は18年度から運用する計画。20年の東京五輪・パラリンピックの事前キャンプ誘致にも結び付けたい考えだ。

スポーツや医療関係者でつくる有識者検討会（座長・油野利博県体育協会会長）は20日、鳥取市のコカ・コーラ体育館で2回目となる会合を開催。健常者についても国体レベルの

選手は利用できるようにするという方針に対し、委員から「障害者が優先的に使用できる制度や時間を設けないといけない」と指摘があった。

県スポーツ課は「障害者スポーツの競技人口増と競技力向上を目指すし、スポーツ面でも共生社会の実現に取り組む」としている。

（今岡浩明）